

令和 6 年度
事業計画

社会福祉法人
御所市社会福祉協議会

すべての人が力を発揮できる包摂社会を目指して

新型コロナウイルス感染症により３年以上続いた災禍は、ＡＩ、デジタル化などといった人々の働き方やコミュニケーションなどの社会のあり方、さらにはモノの価値観までも変容させました。一方で、地域社会における福祉のかたちは、住民が主体となって地域の人を地域の人が支え合うことが改めて見直され、重要視されています。

令和６年１月１日に発生した能登半島地震では、道路が寸断されたために被災地に向かうルートが限られ、発生当初は給水車や物資等の県外からの支援がなかなか行き届かない状況であったと報道されていました。私たちが暮らす近畿圏においては、近い将来必ず起こると言われている「南海トラフ地震」に備え、日頃から住民が防災に対する意識を持つための防災訓練等が行われてきました。しかし、この数年のコロナ禍ではそういった多くの人が集まる訓練ができなかったため、改めて災害に備えるための行動と意識づけ、人と人との結びつきを大切に感じられるまちづくりや社会の再構築を行う必要があります。

災害時には「災害ボランティアセンター」の設置、運営が求められる御所市社会福祉協議会においては、令和６年４月より供用が開始される「御所市防災交流館（愛称：ミモーロ）」において災害ボランティアセンター設置訓練を行い、災害時における協定を締結した団体の皆様にもご協力いただき、「災害時に備える行動」を実践していくことを令和６年度の目標とします。

第３期御所市地域福祉活動計画（令和５年度～令和１１年度）の策定において、新たな基本理念として「共に生き、共に支え合うところを育み、誰もが地域でつながるまち・御所」を掲げました。事業の展開にあたっては、常に基本理念を念頭に、困った人を見かけたときに声をかけ、助けられるような豊かで優しい心を育む「心のバリアフリー」事業に重点を置き、小中学校における福祉体験（車いす体験、白杖体験、ユニバーサルデザイン等）を定期的かつ継続的に実施していきます。

厚生労働省は、介護、障がい、子ども・子育て、生活困窮といった各分野の専門性をお互いに活用し、「地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業への取り組み」に力を入れています。社会福祉協議会においても、福祉分野にとどまらず、保健医療、教育等多様な分野やさまざまな関係機関と連携・協働していくことがこれまで以上に求められています。

以上のことを推進していくために、行政や関係機関とパートナーシップを築いて各種団体のサポートを行っていきます。また、働きがいや福祉事業のやりがい等、目標・目的意識を持った職員で構成される組織となるために、組織内の意識改革を引き続き行っていきます。

基本理念

「共に生き、共に支え合うところを育み、 誰もが地域でつながるまち・御所」

＜第3期 御所市地域福祉活動計画より＞

◇基本方針

基本理念の下、「地域共生社会」の実現に向け、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、行政をはじめとする関係機関と協働して、誰もが生き生きと暮らすことができる仕組みを構築していきます。私たちがこれから目指す地域共生社会は、あらゆる分野で年齢や性別、障がいの有無に関係なく、自己の思いを実現できる社会です。そのためには「共感づくり」が不可欠です。人は往々にして自分が肯定し、関心を寄せている事柄や実際に持っている、関わっているものが日々の行動や活動の中心となります。逆に、興味がない事柄や馴染みがない考え方については意欲や関心は薄れ、さらに否定し排除にすらつながってしまう場合もあります。

平成27年に国連でSDGsが採択され、「多様性（ダイバーシティ）」の時代と言われています。SDGsの根幹をなす「誰一人取り残さない」という概念は、住民主体の助け合いを行っていく上で必要不可欠なものです。

令和5年度の新規事業『住民参加型在宅サービス事業—たすけ愛隊—』は、高齢、障がい、出産前後等の理由で支援を必要とする方に対し、地域の有償ボランティアが支援し、住み慣れたまちで自立した生活を送れるよう、「住民による助け合いの福祉のまちづくり」を目指して開始しました。

御所市社会福祉協議会の独自事業で、介護保険の審査認定前の方の家事代行支援や独居の高齢者が一人ではできない家の片付け、身近に頼れる家族、親戚がいない子育て世帯の支援等を行っています。事業開始後、口コミ等で徐々に問い合わせも増えており、想定以上に多くのニーズがあることがわかってきました。多くのニーズに応えていくためには、援助会員の増強が喫緊の課題となります。有償ボランティアの養成、サービス内容の広報、周知に努め、市内のどの地域においても『たすけ愛隊』の支援が提供できるような体制を展開していきます。

◇重点項目

- ・地域へのアウトリーチ
- ・「通いの場」の提供と持続
- ・職員のスキルアップ

◇事業区分

経理規程第6条に記載のとおり「社会福祉事業」とし、拠点区分として「地域福祉事業」と「介護保険・障害福祉サービス事業」の2つに分かれる。

1. 地域福祉事業

(1) 法人運営事業

事業内容：理事会・評議員会の運営、御所市社会福祉大会の開催

内 容	日 程
理事会	第1回 令和6年5月下旬予定
	第2回 令和7年1月下旬予定
	第3回 令和7年3月下旬予定
評議員会	第1回 令和6年6月中旬予定
	第2回 令和7年1月下旬予定
	第3回 令和7年3月下旬予定
御所市社会福祉大会	令和6年11月下旬予定
御所市地域福祉活動計画策定委員会	令和7年2月下旬予定

(2) 軽度生活援助事業

事業内容：単独世帯・高齢者世帯で援助を必要とする世帯に対し食材の買い物等の支援を行う（御所市委託事業）

(3) ボランティアセンター事業

事業内容：ボランティアに関心のある活動希望者に対し、相談や情報の提供ならびにネットワークの構築を進め、ニーズに合った活動を支援するための総合窓口

【令和6年度】養成講座（たすけ愛隊6回）実施予定

エコキャップ・使用済み切手・プルタブ回収 通年実施

<参考>

【令和5年度】養成講座（たすけ愛隊8回）

エコキャップ 609kg、使用済み切手回収 4,700g、
プルタブ回収 22kg (2月末現在)

【令和4年度】養成講座 0回、エコキャップ回収 750kg、

使用済み切手回収 2,230g、プルタブ回収 17.3kg

○コミュニティサロン「てとてと」

毎月1回 第3木曜日 午後1時～4時に開催

【令和6年度】毎月1回開催 12回予定

<参考>

【令和5年度】毎月1回開催 参加者 延 327人（ボランティア含む：2月現在）

【令和4年度】開催12回 参加者 延 240人（ボランティア含む）

○オープンスペース「い〜ばしょ」

ゆったり過ごせる居場所づくり

【令和6年度】毎月1回「てとてと」と同時開催予定

※令和3年度から始めているが利用者0人

○住民参加型在宅サービス事業—たすけ愛隊—（新規事業）実稼働R5.6～

援助会員（有償ボランティア）の養成、派遣

【令和6年度】利用者見込数 延 200人

<参考>

【令和5年度】利用者数 延 160人

利用会員35人、援助会員30人、援助会員稼働人数12人
(2月末現在)

(4) 心配ごと相談事業

事業内容：悩みを持つ人々の相談窓口となり、あらゆる相談に応じ問題解決に努める（毎週火曜日 午後１時～３時）

【令和6年度】通年実施

<参考>

【令和5年度】相談件数 12件（2月末現在）

【令和4年度】相談件数 13件

(5) 共同募金配分金事業

事業内容：運営委員会・審査委員会の運営
一般募金および歳末たすけあい募金運動の実施
募金助成（団体活動助成・施設活動助成・公募団体活動助成・社会福祉協議会活動助成等）

【令和6年度会議等予定】

内 容	日 程
運営委員会	令和6年8月下旬予定
審査委員会	令和6年7～8月頃予定
一般募金	令和6年10月1日～令和7年3月31日
歳末たすけあい募金	令和6年12月1日～令和6年12月31日

○共同募金目標額	一般募金	3,000,000円
	歳末たすけあい募金	1,700,000円

< 参考 >

○過去5年の目標額

	一般募金	歳末たすけあい募金
令和元年度	3, 0 0 0, 0 0 0 円	2, 1 0 0, 0 0 0 円
令和2年度	3, 0 0 0, 0 0 0 円	2, 1 0 0, 0 0 0 円
令和3年度	3, 1 0 0, 0 0 0 円	2, 0 0 0, 0 0 0 円
令和4年度	3, 1 0 0, 0 0 0 円	1, 9 0 0, 0 0 0 円
令和5年度	3, 0 0 0, 0 0 0 円	1, 8 5 0, 0 0 0 円

○小地域活動推進事業

- ・一人暮らし高齢者等の訪問 年2回実施（5月、12月）
- ・一人暮らしの高齢者・障害者宅への配食 通年実施

○療育教室「きらっこひろば」

毎月第3土曜日 午後1時30分～2時30分
4月～翌年3月 全12回開催予定

○広報誌「社協だより」2回発行 令和6年7月1日、10月1日発行予定

（6）生活福祉資金貸付事業(奈良県社会福祉協議会委託事業)

事業内容：低所得世帯・障害者世帯・高齢者世帯を対象とした無利子または低利息で生活に必要な資金を貸し付けるとともに、世帯の自立に向けて支援を行う事業（総合支援資金・福祉資金・教育支援資金・不動産担保型生活資金）

奈良県社会福祉協議会生活福祉資金貸付業務に対する事務

資金の種類

- ・総合支援資金・・・「生活支援費」「住居入居費」「一時生活再建費」
- ・福祉資金・・・「福祉費」「緊急小口資金」（原則上限10万円）
- ・教育福祉資金・・・「教育支援費」「就学支度費」
- ・不動産担保型生活資金・借受人の死後に相続人が住宅売却する等により借入金を償還する

【令和6年度】生活福祉資金貸付見込数 15件 5,600,000円

＜参考＞

令和5年度 15件 5,675,000円

（7）善意銀行運営事業

事業内容：善意金品の受払に関する業務

【令和6年度】寄付見込額 1件 10,000円

<参考>

○過去5年の寄付金額

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数	2件	2件	2件	3件	1件
金額	29,281円	15,000円	22,000円	10,000円	16,000円

(8) 日常生活自立支援事業(奈良県社会福祉協議会委託事業)

事業内容：判断能力が不十分な、認知症高齢者や精神・知的障害者に対し、日常生活に必要な金銭管理及び文書管理等の支援を行う

【令和6年度】利用者見込数 12人

<参考>

○過去5年の利用者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (2月末まで)
利用者数	18人	18人	18人	17人	12人

2. 介護保険・障害福祉サービス事業

(1) 訪問介護事業

○ヘルパー派遣(下記参照)

○御所市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスB

《ちょいボラメイト》(御所市委託事業)

【令和6年度】利用者見込数 延 230人
養成講座 1回実施予定

<参考>

【令和5年度】利用者数 延 220人
利用会員7名、ちょいボラメイト稼働人数4名、
養成講座1回実施 (2月末現在)

【令和4年度】利用者数 延 33人(R4.11~R5.3)

(3) 障害福祉サービス事業（居宅介護）

(4) 移動支援（御所市委託事業）

事業内容：屋外での移動が困難な障害者（児）の方が、生活上必要な外出や余暇活動などの社会参加のための外出時の移動支援を行う。

【令和6年度】利用者見込数	介護保険	110人
	障害者（移動支援含む）	120人

○【介護保険】過去5年の利用者数

○【障害者】過去5年の利用者数 ※移動支援事業（御所市委託事業）含む

(5) 障害者一般相談支援事業（御所市委託事業）

【令和6年度】利用見込件数 延 60件

<参考>

○過去5年の障害者（児）相談支援件数

	令和元年度	令和2年度 (8月末まで)	令和3年度 (2月から再開)	令和4年度 (12月末まで)	令和5年度
相談件数	延 243件	延 32件	延 54件	延 89件	0件

※令和5年9月より専門職を雇用したため、令和5年度中の委託契約について締結要望は3度行った。

(6) 特定障害者相談支援事業

(7) 特定障害児相談支援事業

事業内容：身体障害者児・知的障害者児・精神障害者へのサービス等利用計画等の作成を行う。

※令和5年1月より休止中

令和7年1月より再開予定

※特定相談支援事業に対応できる専門員が不在

※奈良県初任者研修終了後再開予定

【令和6年度】計画見込数 障害者 延 3件
障害児 延 3件

<参考>

○過去5年の障害者（児）計画数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (8月末まで)	令和3年度 (2月から再開)	令和4年度 (12月末まで)
計画数(障害者) (モニタリング含む)	延 64件	延 75件	延 38件	延 3件	延 28件
計画数(障害児) (モニタリング含む)	延 34件	延 49件	延 44件	0件	延 5件

※令和5年度は休止中のため障害者・障害児ともに0件

◇その他社協の活動

・車いすの貸し出し

【令和6年度】利用見込数 25件

<参考>

○過去5年の利用件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (2月末まで)
年間件数	延 25件	延 31件	延 27件	延 38件	延 33件

・食のほっと便

【令和6年度】利用者見込数 延 160人

<参考>

【令和5年度】利用者数 延 143人（2月末現在）

【令和4年度】利用者数 延 214人

・フードレスキュー（奈良県社会福祉協議会実施事業）

【令和6年度】利用者見込数 3人

<参考>

【令和5年度】利用者数 1人（2月末現在）

【令和4年度】利用者数 5人

○御所市防災交流館（ミモーロ）で協定団体と防災訓練の実施（時期未定）

○昨年に引き続き、主任児童委員と共に市内学校訪問同行

○昨年に引き続き、市内の小学校・中学校・高等学校に福祉体験・災害ボランティアに関する授業の実施と身体障害者協会のご協力の下、ボッチャ・モルックの軽スポーツを取り入れた多世代交流の実施等

○職員のスキルアップ

県社協等が主催する外部の研修に積極的に参加し、職員それぞれがスキルアップに努め、所内での知識、情報の共有を図る。

【令和6年度】研修参加見込数 延 150件

<参考>

○過去5年の研修参加件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (2月末まで)
年間件数	延 6件	延 25件	延 90件	延 110件	延 158件